

# 水道施設工事写真撮影基準

## 1 撮影基準

### 1-1 撮影頻度

撮影頻度は、別紙「撮影箇所一覧表」に示すものとする。

### 1-2 撮影内容の明示

写真撮影にあたっては、次の項目のうち必要事項を記載した小黒板を被写体とともに写し込むものとする。

- ① 工事名
- ② 工種等
- ③ 測点・詳細(位置)
- ④ 設計寸法
- ⑤ 実測寸法
- ⑥ 略図

なお、小黒板の判読が困難になる場合は、別紙に必要事項を記入し、写真に添付して整理する。特殊な場合で、監督員が指示するものは、指示した項目を指示した頻度で撮影するものとする。

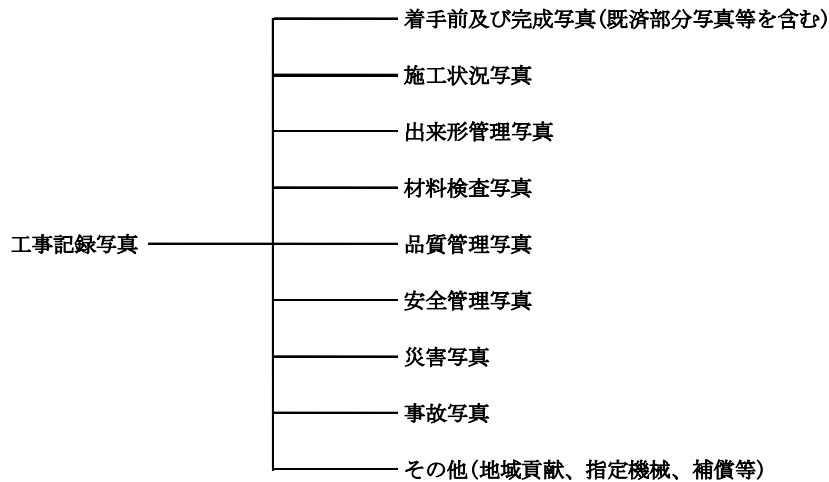
### 1-3 撮影の要点

工事記録写真は、契約図書に基づき、工事が適正に施工されたことを証明するものであり、また、設計図書と工事現場とが一致しない場合、又は、施工条件が相違する場合等、設計変更の根拠資料となるものであるため、次の事項に留意して撮影しなければならない。

- (1)写真管理担当者を定め、予め施工計画書等に写真撮影計画を作成し、撮影から整理提出まで責任をもって行うこと。
- (2)工事内容を十分理解し、写真の目的を十分把握すること。
- (3)構造物等の出来形寸法が明確にわかるようにロッドテープ、ポール、スタッフ等をあて撮影すること。
- (4)工事記録写真は、監督員の提出指示があった場合、遅滞なく提出できるように整理しておかなければならない。

## 1-4 工事記録写真の分類

工事記録写真は、次のように分類する。



### (1) 着手前及び完成写真

着手前と完成後の写真は、背景が分かるように撮影する。また、着手前と完成後を対比できるように、同一の位置及び方向から撮影する。

### (2) 施工状況写真

施工中の状況を工事の段階に合わせて全景又は代表部分で撮影する。なお、具体的には、工事進捗状況、工法、使用機械、仮設工等を撮影する

### (3) 出来形管理写真

出来形管理基準の基づき、所定の形状及び各工種の幅、高さ、厚さ等の寸法を撮影する。

### (4) 材料検査写真

工事に使用する材料の搬入状況及び検査の実施状況等を撮影する。また、完成後、寸法、数量等が確認できないものについては、材料の規格、寸法、マーク、刻印等が分かるようにロッドテープ等の測定器具を使用して撮影する。

### (5) 品質管理写真

品質管理基準に基づいて行った試験又は測定状況及び測定値を撮影する。

### (6) 安全管理写真

工事現場の交通整理及び作業の安全確保をするための防護施設、各種標識、安全施設等を撮影する。

### (7) 災害写真

工事中に災害を受けた場合は、その状況を示す写真を撮影すること。

災害写真は請負工事契約書第29条に該当する、不可抗力による損害を受けた場合の判定基準となるため、正確に撮影すること。

### (8) 事故、その他

事故関係、地域貢献、指定建設機械、補償関係等を撮影する。

## 2 撮影要領

詳細な、写真撮影位置及び撮影内容については、施工計画書等で写真撮影計画を作成の上、監督員と十分打ち合わせて決定すること。

### 留意事項

- ①撮影箇所一覧表に記載のない工種については、監督員と協議するものとする。
- ②撮影頻度の適宜とは、設計図書の仕様が確認できる必要最小限の箇所や枚数とする。
- ③主に届出配管工が行なう作業については、届出配管工が作業を行っていることが確認できること。
- ④黒板に設計値及び出来形実測値を記載する場合は、実測値を( )書きとする。
- ⑤工事写真の全部または一部について、小黒板情報電子化を行うことができる。この場合、「工事写真の小黒板情報電子化に関する特記仕様書」を遵守し、監督員の承諾を得た上で使用しなければならない。
- ⑥黒板は、腕章を着用した現場代理人が持って写真に入ること。ただし、前記⑤の場合についてはこの限りではない。

## 3 布設(替)工事

### 3-1 測点

- ◆ 撮影箇所は布設延長40m毎に最低1箇所撮影することを原則とする。  
(例  $150\text{m} \div 40\text{m} = 3.75$ 箇所 4箇所)
- ◆ 測点は、設計図書に表示している横断箇所に設けることを原則とする。ただし、土被り・寄り寸法等が変化する場合は、監督員と協議のうえ追加測点を設ける。追加測点は、測点間の若番の枝番(例 測点1-1)とする。また、追加測点の撮影項目は3(3-1)-ケ管布設深度(土被)に準じた撮影とする。
- ◆ 撮影写真には、背景を入れるとともに、撮影写真に一貫性を持たせるために出来る限り同一箇所・同一方向から撮影する。
- ◆ 測点(写真撮影箇所)付近に障害物等があり撮影困難な場合は、前後4m未満の範囲で移動することができる。この範囲以上の場合は、監督員と協議し了承を得ること。
- ◆ 黒板に測点番号を記入し撮影箇所が判明できるようにする。また、黒板の位置は、箱尺、ポール等の後、横に配置するのを原則とする。
- ◆ 道路種別や舗装構成が異なる箇所がある場合は、監督員との協議によるが、原則測点として追加する。

### ※撮影種別及び留意事項

#### ア.着手前・・・(状況)

- ① 黒板に「着手前」と記載し現況の路面等の状況が判明出来るように撮影する。
- ② 後に撮影する完成写真と状況比較出来る撮影方向とする。
- ③ 布設位置が分かるように管センター位置にポールを置いて撮影すること。

#### イ.完成・・・(状況)

- ① 着手前及び各種写真と同背景とし、着手前の路面等との状況比較が出来るように撮影する。
- ② 布設位置が判るように管センター位置にポール等を置いて撮影すること。
- ③ 黒板に「完成」と記載し撮影する。

#### ウ.舗装切断工・・・(状況)

- ① 舗装切断機械による作業状況を撮影する。
- ② 黒板に道路種別(国,県,市,農道等)及び「舗装切断工」を記載し撮影する。

#### エ.舗装版取壊工・・・(状況・出来形)

- ① 黒板に「舗装版取壊し状況」と記載し、使用機械が確認できるように背景もいれて撮影する。
- ② 黒板に「取壊舗装版厚み検測」及び取壊舗装版の設計厚、出来形実測値を記載し撮影する。

#### オ.掘削工・・・(状況・出来形)

- ① 黒板に「掘削作業状況」と記載し、使用機械が確認できるように背景もいれて撮影する。
- ② 黒板に「掘削断面検測」及び掘削断面の設計掘削幅(路面部 A・底部 B), 深さ(H), 出来形実測値を記載する。

#### カ.会所掘状況・・・(出来形)

- ① ロッドテープ等で掘削深さ、延長を測定し黒板に「会所掘状況」と共に掘削深さH・延長Lの設計値と出来形実測値を記載し撮影する。
- ② 「掘削断面検測」とは別に撮影する。

#### キ.管吊込据付工・・・(状況)

- ① 黒板に「管吊込据付工」と記載し、管の吊込据付状況が確認できるように背景もいれて撮影する。

#### ク.配管継手状況(ダクティル鉄管)・・・(状況)

- ① 日本ダクティル鉄管協会発行の接合要領書を参考に挿し口部に白線を表示し、箱尺等で検尺の上、黒板に「挿入前」と記載して撮影する。NS形及びGX形は、接合器具のセット状況及びレバブロック等による挿入接合状況を併せて撮影する。(異形管・ライナ等がある場合は注意すること)
- ② 管を受口に挿入後、黒板に「挿入後」と記載し、撮影する。NS形及びGX形は、ゲージによるゴム輪位置確認状況を併せて撮影する。
- ③ ボルト・ナットにより接合する継手形式の場合は、締め付けを行っている状況を撮影する。また、締め付けトルクの管理が必要な場合は、トルクレンチを使用し、締め付けを行っている状況を撮影する。黒板には「締め付け状況」又は「トルクレンチ締め付け(締め付けトルク値)」と記載する。
- ④ 管材料には、管理番号(管番号)が確認出来るように明示して撮影する。

#### ケ.配管継手状況(水道配水用ポリエチレン管継手)・・・(状況)

- ① 配水用ポリエチレンパイプシステム協会発行の施工マニュアルを参考に管端から測って規定の差し込み長さの位置に標線を記入及び、融着面の波形線マーキングを行った後、黒板に「融着面の切削マーキング」と記載し、撮影する。
- ② 黒板に「融着面の切削完了」と記載し、融着面に記入した波形マーキングが完全に消え、切削完了が確認できるように撮影する。  
(使用機械が判別できるように、切削機(スクレーパー)を外す前に撮影する。)
- ③ 黒板に「融着面の清掃状況」と記載し、挿し口の切削面及び受口の内面の清掃状況を撮影する。(清掃はきれいな素手で行う。軍手は厳禁とする。)
- ④ EFソケット等の挿入位置(挿し口の標線マーキング位置まで挿入)及びクランプを用いて管とEFソケット等の固定を行った後、黒板に「融着部の固定」と記載し、撮影する。(管番号、挿し口マーキング、固定状況が判別できるように)

- ⑤ 黒板に「コントローラの正常終了確認」と記載し、EF ソケット等のコントローラの表示が正常終了であることが確認できるように撮影する。
- ⑥ 黒板に「インジケータの隆起確認」と記載し、EFソケット等のインジケータが隆起していることが確認できるように撮影する。(クランプ固定、管に記入された融着完了時刻、冷却完了時刻が確認できること)
- ⑦ EF接合完了後、クランプで固定された状態で撮影する。黒板には、「融着完了」及び融着終了時刻、冷却完了時刻を記載する。

#### コ.管布設深度(土被)・・・(出来形)

- ① 配管の位置及び路面までの「被り」が判明できるように箱尺(深さ)、ポール(路面)を撮影する。
- ② 黒板に「管布設工(土被)」と記載し、管布設土被の設計値、実測寸法及び官民境界からの寄り寸法(測点No.1より測点No.2等、測点順序に向かってL, Rとする)を記入する。

#### サ.砂巻工・・・(出来形)

- ① 管布設土被写真と比較出来るよう留意の上撮影すること。
- ② 砂巻面から路面までの寸法がわかるように箱尺(深さ)ポール(路面)を当てるとともに、締固め完了後に撮影する。
- ③ 黒板に「砂巻工」と記載するとともに、設計砂巻厚及び路面から砂巻上面までの実施寸法を記載する。ただし、実測寸法は( )書きとする。  
※水道配水用ポリエチレン管等、砂床工がある場合は、砂床の締固め完了後、埋戻し土及び背景が確認出来るように砂床工を撮影する。黒板には、「砂床工」と記載する。

#### シ.埋戻(入替)転圧工・・・(出来形・状況)

- ① 各層(20cm毎)ごと転圧完了後、土砂等埋戻し上面より路面までの寸法がわかるように箱尺(深さ)、ポール(路面)を当てる。また、撮影方向から見て箱尺、ポールの後に使用機械が確認できるように転圧状況を含めて撮影する。  
(広い範囲の転圧後の状況が確認できるように留意すること)
- ② 黒板に「埋戻(入替)転圧工」及び入替する土砂の種類を記載するとともに、設計埋戻(入替)転圧厚及び路面からの深さ実測寸法を記載する。

#### ス.小車運搬工・・・(状況)

- ① 掘削時・埋戻し時等の小車での運搬状況がわかるように背景もいれて撮影する。
- ② 黒板には「小車運搬工」と記載し撮影する。

### 3-2 詳細

- ◆ 写真撮影箇所は異形管及び弁栓類を使用するすべての箇所で撮影する。
- ◆ 配管、鉄蓋、各種ボックス状況及び管防護工の出来形等を撮影する。
- ◆ 黒板には、詳細番号を記入し撮影箇所が判明出来るようにするとともに、撮影する被写体材料の管理番号(管番号)を記載する。また鉄蓋、ボックスの撮影時も弁栓類の管理番号を記載する。
- ◆ 設計変更等に伴い詳細箇所が増えた場合は、監督員と協議のうえ、設計詳細番号の若番の枝番号とする。また、詳細箇所が減った場合は、詳細欠番とする。

## ※撮影種別及び留意事項

### ア.配管状況・・・(状況)

- ① 異形管使用箇所、排水設備工等、被写体である管材料を定め、使用材料及び接続状況がわかるように撮影する。※コンクリート削孔工を実施する場合は、削孔径・削孔深の確認を行なうこと。
- ② 黒板には、「排水設備工」等工種を記載し、当該工種外で異形管等を使用した場合は、「異形管布設状況」と記載する。
- ③ 水路伏越箇所については、水路両側にて水路伏越深度(土被)を箱尺(高さ)、ポール(路面)を当て、黒板に「水路伏越(土被)」と記載し、水路からみた方位及び管土被実測寸法を記入し撮影する。

### イ.管防護工・・・(出来形)

- ① 基礎砕石工、コンクリート工の出来高状況をリボンテープ、箱尺等にて形状、寸法(高さ、幅、長さ)が確認出来るように撮影する。
- ② 黒板には、工種毎に「管防護工・基礎砕石工」・「管防護工・型枠工」・「管防護工・コンクリート工」と記載する。

### ウ.仕切弁取付け及びボックス設置工・・・(状況・出来形)

- ① 黒板に「仕切弁取付け工」と記載し、被写体である弁の設置状況が確認できるように撮影する。
- ② ボルト・ナットにより接合する継手形式の場合は、締付けを行っている状況を撮影する。また、締め付けトルクの管理が必要な場合は、トルクレンチを使用し、締付けを行っている状況を撮影する。黒板には「締付け状況」又は「トルクレンチ締付け(締付けトルク値)」と記載する。
- ③ 底版及び上・中・下部壁ボックス、鉄蓋の設置手順に合わせて設置状況が確認出来るよう、ボックス設置後、設置したボックスの総高さの寸法がわかるよう箱尺(高さ)、ポール(路面)を当て黒板に実測高さを記入のうえ撮影する。黒板には「仕切弁ボックス設置工」と工種名を記載する。
- ④ 仕切弁ボックス設置後、鉄蓋の中心にスピンドルが有るかの確認をし、黒板に「仕切弁ボックス据付位置検測」と記載しスケール等を当て撮影する。

### エ.バタフライ弁・空気弁・消火栓・排水栓取付け及びボックス設置工

#### …(状況・出来形)

- ① 黒板に「〇〇弁取付け工」「消火栓(排水栓)取付け工」と記載し、被写体である弁栓類の設置状況が確認できるように撮影する。
- ② 前記、仕切弁取付け及びボックス設置工の②に準ずる。
- ③ 各種ボックス、鉄蓋の設置手順に合わせて設置状況が確認出来るよう、ボックス設置後、設置したボックスの総高さの寸法がわかるよう箱尺(高さ)、ポール(路面)を当て黒板に実測高さを記入のうえ撮影する。黒板には「〇〇弁ボックス設置工」「消火栓(排水栓)ボックス設置工」と記載する。
- ④ GLから消火栓カップリングまでの深さが確認出来るよう撮影する。また黒板には「消火栓(排水栓)据付位置の深さ検測」と記載する。箱尺(高さ)、ポール(路面)を当て黒板に実測高さを記入のうえ撮影する。(150mm $\leq$ H $\leq$ 300mm)
- ⑤ GLから空気弁ふたまでの深さが確認出来るよう撮影する。また黒板には「空気弁据付位置の深さ検測」と記載する。箱尺(高さ)、ポール(路面)を当て黒板に実測高さを記

入のうえ撮影する。(150mm≦H≦300mm)

- ⑥ 消火栓(排水栓)ボックス設置後、鉄蓋の中心にカップリングの中心が有るかの確認をし、黒板に「消火栓(排水栓)ボックス据付位置検測」と記載しスケール等を当て撮影する。
- ⑦ 空気弁ボックス設置後、鉄蓋の中心に空気弁ふたの中心が有るかの確認をし、黒板に「空気弁ボックス据付位置検測」と記載しスケール等を当て撮影する。

#### オ.NS形・GX形のライナ取付け工・・・(状況)

- ① ライナは全ての取付け箇所、取付け材料が確認出来るように撮影する。黒板には継手形式・口径及び取付けた管の管理番号を記入のうえ「ライナ取付け工」と記載する。

#### カ. 鋳鉄管切断(溝切)工・管切断面補修工・・・(状況)

- ① 鋳鉄管切断(溝切)工は、切断(溝切)機械及び届出配管工が確認出来るように路線・口径別に1箇所以上撮影する。黒板には継手形式・口径及び切管の管理番号を記入のうえ「鋳鉄管切断(溝切)状況」と記載する。
- ② 管切断面補修工は、切断面の補修完了が確認出来るように全ての切断箇所を撮影する。黒板には継手形式・口径及び切管の管理番号を記入のうえ「管切断面補修工」と記載する。

#### キ. 管切断工(水道配水用ポリエチレン管)・・・(状況)

- ① 管切断工は、所定のパイプカッタが確認出来るように路線・口径別に1箇所以上撮影する。黒板には、口径及び切管の管理番号を記入のうえ「管切断状況」と記載する。

#### ク. 管明示テープ工・・・(状況)

- ① 管明示テープ工は、テープ貼付け完了後にテープの貼付け間隔がロッドテープ等を用いて確認出来るように直管10本に1本以上撮影する。黒板には口径と管理番号を記入のうえ「管明示テープ工」と記載する。

### 3-3 給水工事

- ◆ 給水工事は、配管状況写真の撮影を原則とするが、10箇所に最低1箇所は前記3(3-1)-ア～スに準じて撮影する。

#### (1) 給水管取替工

- ① 給水管引込箇所の穿孔及び配管状況・土被りが確認できるように撮影する。
- ② 黒板には「給水管取替工」と記載し管理番号、お客様番号(分岐している場合は、代表のお客様番号)、本管管種、本管口径、分水栓(割T字管)口径を記入し撮影する。

#### (2) 宅地内布設工

- ① 「着手前」・「完成」及び「配管状況」・「本復旧」が確認出来るように全ての箇所を撮影する。宅地内が舗装の場合は舗装厚が確認出来る写真を撮影する。
- ② 黒板には、工種毎に「宅地内布設工・○○○○」と記載し、口径及び管理番号又はお客様番号を記入し撮影する。

#### (3) 分水栓及び給水管締め切工

- ① 締め切り状況及び掘削深度が確認出来るように全ての箇所を撮影する。
- ② 黒板には、「○○○締め切り工」と記載し、お客様番号(分岐している場合は、代表

のお客様番号)及び口径を記入し撮影する。

#### (4) 止水弁取付け及びボックス設置工・止水栓取付け及び筐設置工

- ① 止水弁取付け及びボックス設置工は、前記3(3-2)-ウに準ずる。
- ② 被写体である止水栓の取付け及び、筐の設置状態が確認出来るように撮影する。黒板に「止水栓取付け工」「止水栓筐設置工」と記載し、管理番号又はお客様番号を記入し撮影する。ボックス設置後、設置したボックスの総高さの寸法がわかるように箱尺(高さ)、ポール(路面)を当て黒板に実測高さを記入のうえ撮影する。

#### (5) 逆止弁取付け工

- ① 逆止弁取付けの材料及び取付け状況が確認出来るようにメーターを取り外した状態で、全ての取付け箇所を撮影する。
- ② 黒板には、「逆止弁取付け工」と記載し、口径及びお客様番号を記入し撮影する。(メータユニット設置箇所も同様とする。)

#### (6) 給水装置水圧試験工・・・(品質管理)

- ① 分水栓取付け完了後(穿孔前)に水圧試験状況を撮影する。撮影頻度は、10箇所に1箇所以上とする。
- ② 割T字管の場合は、割T字管取付け完了後、全ての箇所の水圧試験状況を撮影する。
- ③ 黒板には、「水圧試験工」と記載し、管理番号及びお客様番号を記入し撮影する。

#### (7) 量水器ボックス取替工

- ① 施工前に既設量水器ボックスの側に新設の量水器ボックスを置き新旧の比較ができるように撮影する。
- ② 黒板には、「量水器ボックス取替工」と記載し、管理番号及びお客様番号、量水器口径を記入し撮影する。

#### (8) 埋設表示ピン設置工

- ① 埋設管表示ピン設置後に設置状態が確認出来るように全ての箇所を撮影する。
- ② 黒板には、「埋設管表示ピン設置工」と記載し、管理番号及びお客様番号を記入し撮影する。

### 3-4 土留工

#### ア. 簡易土留矢板(軽量鋼矢板・木矢板)

- ① 簡易土留工は、矢板の使用枚数(延長)が判明出来るように撮影する。また、継続して作業している状況等、撮影箇所が常に確認出来るようにすべての写真に背景を入れると共に、写真に一貫性をもたせるため、できる限り同一方向より撮影する。
- ② 簡易土留工の撮影は、掘削・土留矢板設置完了後に撮影する。
- ③ 黒板には、「簡易土留工」と記載し撮影すること。  
(使用矢板の長さとし1枚あたりの幅を記入すること)
- ④ 会所掘に伴う簡易土留工の撮影箇所は、測点のみとする。

## イ. 土留矢板(本矢板)

- ① 土留矢板は、打設及び引抜状況(使用機械等)の確認が出来るよう撮影するとともに、打設枚数(延長)と、根入長さが判明出来るよう背景を入れる。
- ② 黒板には、「土留工」と記載し撮影する。  
(使用部材の寸法等を記入すること)

## 3-5 舗装工

### (1) 仮復旧工

- ◆ 仮復旧工は、布設(替)工の測点と同じ地点で同方向に撮影する。また、完成時に本復旧等で打ち替えされる箇所については、本復旧施工前に「本復旧工・着手前」の取り忘れがないか確認する。
- ◆ 本管布設時に、即日仮復旧を行う場合は、プライムコート散布工からの撮影とする。
- ◆ 前工程と比較出来るよう工種ごとに考慮して撮影すること。

### ※撮影種別及び留意事項

#### ア. 路盤工・・・(出来形)

- ① すき取り掘削・転圧状況及び使用機械が確認できるように撮影する。
- ② 黒板には、「仮復旧工(路盤工・施工状況)」と記載する。
- ③ すき取り掘削及び転圧完了後、検測ロッド等にてすき取り幅、路面よりの深さ(表層厚)の出来形が確認出来るよう撮影する。
- ④ 黒板には、「仮復旧工(路盤工)」及び設計厚、出来形実測を記載する。

#### イ. プライムコート散布工・・・(出来形)

- ① 極力広い範囲の散布完了が確認出来るように背景を入れて撮影する。
- ② 黒板には、「プライムコート散布工」と記載する。

#### ウ. 表層工・・・(状況・出来形)

- ① 敷き均し転圧状況、使用機械が確認できるように撮影する。
- ② 黒板には、「仮復旧工(表層工・施工状況)」と記載する。
- ③ 敷き均し転圧完了後、検測ロッドにて舗装厚が確認出来るよう撮影する。
- ④ 黒板には、「仮復旧工(表層工)」及び設計厚、出来形実測を記載する。

#### エ. 区画線復旧工・・・(状況)

- ① 黒板には、「区画線復旧工」と記載し、施工状況及び使用機械が確認出来るよう背景も入れ撮影する。

### (2) 本復旧工

- ◆ 本復旧の場合、布設工の測点での撮影はもちろん必要であるが、それ以外の箇所での復旧工種の異なった箇所での撮影を要するので、写真撮影計画時に特に配慮しておく。
- ◆ 前工程と比較できるように、工種ごとに考慮して撮影する。

### ※撮影種別及び留意事項

#### ア. 着手前・・・(状況)

- ① 完成写真と比較できる撮影方向とする。
- ② 黒板には、「本復旧工・着手前」と記載する。

イ. 路床工 ……(状況・出来形)

- ① 前記3(3-5)-(1)-アに準ずる。
- ② 黒板には、「本復旧工(路床工)」及び設計厚、出来形実測を記載する。
- ③ 不陸整正の実施状況が確認でき、黒板には「本復旧工・不陸整正工」と記載する。
- ④ 補足材を使用する場合は、敷き均し状況・使用機械が確認できるように「本復旧工・補足材敷均し状況」と黒板に記載し撮影する。また、設計厚、出来形実測の確認ができるよう「本復旧工・補足材敷均し工」と黒板に記載し撮影する。

ウ. 上層路盤工 ……(状況・出来形)

- ① 敷き均し転圧状況、使用機械が確認できるように「本復旧工(上層路盤工・施工状況)」と黒板に記載し撮影する。
- ② 敷き均し転圧完了後、検測ロッドにて路面よりの深さ(基層工及び表層工)及び路盤厚の出来形が確認出来るよう撮影する。
- ③ 黒板には、「本復旧工(上層路盤工)」及び設計厚、出来形実測を記載する。

エ. プライムコート散布工 ……(出来形)

- ① 前記3(3-5)-(1)-イに準ずる。

オ. 基層工 ……(状況・出来形)

- ① 敷き均し転圧状況、使用機械が確認できるように「本復旧工(基層工・施工状況)」と黒板に記載し撮影する。
- ② 敷き均し転圧完了後、検測ロッドにて路面よりの深さ(表層工)及び基層厚の出来形が確認出来るよう撮影する。
- ③ 黒板には、「本復旧工(基層工)」及び設計厚、出来形実測を記載する。

カ. タックコート散布工 ……(出来形)

- ① 前記3(3-5)-(1)-イに準ずる。
- ② 黒板には「タックコート散布工」と記載し撮影する。

キ. 表層工 ……(状況・出来形出来形)

- ① 敷き均し転圧状況、使用機械が確認できるように「本復旧工(表層工・施工状況)」と黒板に記載し撮影する。
- ② 敷き均し転圧完了後、検測ロッドにて路面よりの深さ(表層工)及び表層厚の出来形が確認出来るよう撮影する。
- ③ 黒板には、「本復旧工(表層工)」及び設計厚、出来形実測を記載する。

ク. 区画線復旧工 ……(状況)

- ① 前記3(3-5)-(1)-エに準ずる。

ケ. 完成 ……(状況)

- ① 着手前及び工種別写真と同背景とし、着手前の路面状況と比較出来るよう撮影する。
- ② 黒板には、「本復旧工・完成」と記載する。

コ. コア抜き ……(出来形)

- ① コアを抜く場所は、監督員が指示する場所とし、箇所毎にコア抜きし、検測ロッドにてコアの形状寸法が確認出来るよう撮影する。黒板には、「本復旧工・コア抜き」及び設計厚、実測を記載する。

### 3-6 既設管撤去工

- ① 土工を伴う場合は前記3(3-1)-(1)-ア・イ・ウ・エ・ケ・サ・シ及び(3-5)-(1)に準ずる。
- ② 既設管撤去状況が確認できるよう撮影する。黒板には口径と管種を記入の上「既設管撤去工・撤去状況」と記載する。
- ③ 監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会いの上、撤去数量が確認できるよう撤去管集積写真を撮影する。黒板には、「撤去管集積状況」と記載する。  
(ロッドテープ等で検尺している状況を撮影すること)  
・撤去管がACPの場合、ポリエチレンスリーブを二重で被覆し、「アスベスト廃棄物」と集積物に表記されていること。
- ④ 運搬時の撤去管積込状況が確認できるよう撮影する。黒板には「撤去管積込状況」と記載する。
- ⑤ 工事現場や仮置き場から既設管を搬出する状況が確認でき、黒板に「既設管搬出状況」と記載し撮影する。
- ⑥ 中間処分場や最終処分場等の会社が確認できるよう撮影する。黒板には「既設管搬入状況」と記載する。

### 3-7 管末閉塞工

- ① 土工を伴う管末閉塞工の場合は前記3(3-1)-(1)-ア・エ・ケ・サ・シ及び(3-5)-(1)に準ずる。
- ② 管末閉塞工の使用配管材料が確認できるよう撮影するとともに、黒板には「管末閉塞工」と記載する。残置管の口径・管種も記載する。

### 3-8 既設管充填工

- ① 残置管へのエアミルク等の注入作業状況や到達状況が確認できるように、使用機械を含めて撮影する。黒板には「既設管充填工・注入状況」と記載する。(流出物はバケツ等で受けること)
- ② 監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会のうえ、注入使用材料が確認できるよう撮影する。黒板には「既設管充填工・注入材料検査」と記載する。
- ③ 充填工終了後、注入使用材料・使用量が確認できるよう撮影する。黒板には「既設管充填工・注入材料の使用量検査」と記載する。

### 3-9 仮設工

#### (1)水替工

- ① 指定された箇所で1箇所以上、水替状況写真を撮影する。
- ② 黒板には「水替工」と記載する。

#### (2)仮設配管工

- ① 仮設配管工は、配管の状況が分かるように、本線ルート全てを撮影する。

- ② 仮設配管完了後、仮設配管延長の確認を監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会で行う。黒板には「仮設配管工・布設延長検測」と記載し、口径及び露出・埋設延長を記載する。

### 3-10 通水試験工(管径800mm以下)

- ① 通水試験区間毎に、監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会の上、試験終了時に水圧試験状況写真を撮影する。
- ② 黒板には、「通水試験工」と記載し、**試験日**、試験開始及び終了時間、試験開始及び終了水圧、立会人名を記載する。
- ③ **立会人は、立会時にチャート紙の余白へ立会人の氏名及び立会日を直筆で記入する。**

### 3-11 水圧試験工(管径900mm以上)

- ① ライナを設置しない直管継手部(全箇所)の内側にテストバンドを設置し、水圧試験工の実施状況を撮影する。
- ② 黒板には、「水圧試験工」と管番号を記載し、全箇所撮影する。

### 3-12 試掘調査工

- ① 掘削完了後、箱尺、ポールを用いて既設埋設物の位置が判明出来るよう撮影する。(掘削後の幅・延長・深さが確認できる様に注意すること)  
ただし、既設埋設物がない場合は、状況を撮影する。
- ② 黒板には、「試掘調査工」と記載し既設埋設物(障害物)があった場合、既設埋設物等の種類、土被及び官民境界からの寄り等を記入し撮影する。また、掘削後の幅・延長・深さも記入する。

### 3-13 弁操作工

- ① 主任技術者又は配管工が弁操作を行っている状況が確認できるよう撮影する。黒板には、「弁操作工」と記載する。ただし、断水回数毎に1箇所以上は撮影すること。

### 3-14 材料検査

#### (1)配管材料

- ① 監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会の上、材料がすべて確認出来るよう撮影する。
- ② 完成後に、寸法、数量等が確認できないものについては、材料の規格、寸法、マーク、刻印等が分かるようにロッドテープ等の測定器具を使用して撮影する。
- ③ 黒板には、「配管材料検査」と記載する。
- ④ 材料の搬入時に搬入状況を撮影する。
- ⑤ 黒板には、「配管材料搬入状況」と記載する。
- ⑥ 毎月1回、配管材料の保管状況を撮影すること。
- ⑦ 黒板には、「配管材料保管状況」と記載する。

## (2) 土留材料(簡易土留矢板含む)

- ① 打ち込み及び圧入等により根入長を必要とする(矢板)については、監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会の上、ロッドテープ等により形状寸法(矢板幅・矢板長)が確認出来るように撮影する。
- ② 黒板には、「土留材料検査」と記載し、矢板名、形状寸法を記入する。

## 3-15 保安設備工

- ① 工事標識、表示板、保安灯、交通整理人等の設置状況を撮影する。
- ② 各種標識類の設置状況が確認できるよう撮影する。黒板には、「保安設備工・標識類の設置状況」と記載する。
- ③ 各種保安施設(セーフティコーン等)の配列状況及び形状が確認できるよう撮影する。黒板には、「保安設備工・保安施設の設置状況」と記載する。
- ④ 交通誘導警備員の交通整理状況が確認できるよう撮影する。黒板には、「保安設備工・交通整理状況」と記載する。

## 3-16 建設発生土搬出工

- ① 発生土の積込状況と運搬車が確認出来るよう撮影するとともに、黒板には、「発生土搬出工・積込状況」と記載する。
- ② 発生土の搬入状況写真は、搬入場所が確認できるよう撮影する。黒板には、「発生土搬出工・搬入状況」と記載する。

## 3-17 建設廃材処分(搬出)工

- ① 建設廃材の運搬を自社で運搬する場合、運搬車の側面に「産業廃棄物収集運搬車」及び「排出事業者名」を表示していることや「書面」を携帯していることが確認できるように撮影する。
- ② 建設廃材の運搬を委託する場合、運搬車の側面に「産業廃棄物収集運搬車」及び「業者名」「許可番号(下6けた以上)」を表示していることや「マニフェスト」を携帯していることが確認できるように撮影する。
- ③ 産業廃棄物収集運搬車への積込状況が確認出来るよう撮影する。黒板には、「建設廃材処分(搬出)工・積込状況」及び建設廃材の種類も記載する。
- ④ アスファルト殻・コンクリート殻等の建設廃材の運搬は認可を受けた産業廃棄物収集運搬車とし、運搬車(車両番号も確認できること)が確認出来るよう撮影する。黒板には、「建設廃材処分(搬出)工・搬出状況」及び建設廃材の種類も記載する。
- ⑤ 舗装切断等で発生する污泥処理は、污泥処理装置が現場で確認できるよう撮影するとともに、污泥収集運搬車(車両番号も確認できること)による処理状況の写真を撮影する。黒板には、「建設廃材処分(搬出)工・舗装切断污泥」と記載する。
- ⑥ 建設廃材の搬入状況写真は最終(中間)処分場の会社が確認できる場所で収集運搬車(車両番号も確認できること)とともに撮影する。黒板には、「建設廃材処分(搬出)工・搬入状況」と記載する。

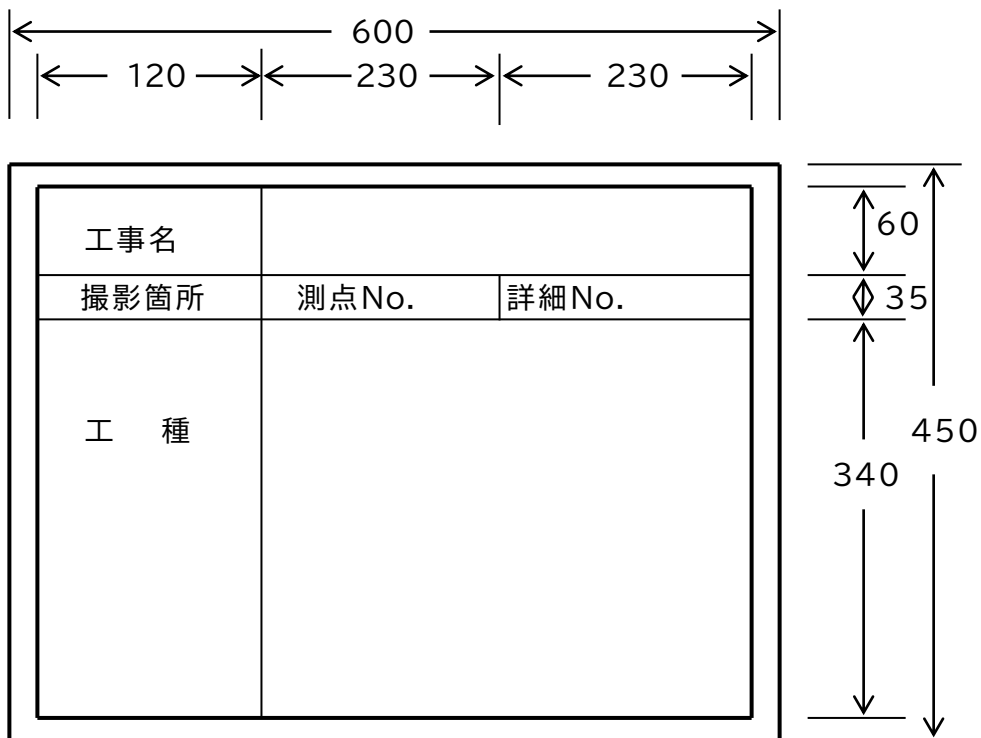
### 3-18 その他

- ① 低騒音型機械の使用が認定シール等で確認できるよう撮影する。黒板には、「低騒音型」と記載する。
- ② 排出ガス対策型機械の使用が認定シール等で確認できるよう撮影する。黒板には、「排出ガス対策型」と記載する。
- ③ 月別の安全訓練等の実施状況が確認できるよう撮影する。黒板には、「安全訓練実施状況」と記載する。
- ④ 現場の見やすい箇所に、「施工体系図」・「建設業退職金共済制度適用事業主工事現場標識」・「建設業許可標識」・「労働保険関係成立票」等を掲げた状況が確認できるよう撮影する。黒板には「現場標識の掲示状況」と記載する。
- ⑤ 地域貢献等を実施した場合は、実施状況や設置状況等が確認できるよう撮影する。黒板には、「地域貢献・〇〇〇〇状況」と記載する。

### 3-19 参考写真

- ① 図面と現地との不一致を発見した場合、実測図、調査結果等の資料とともに、内容が確認出来る写真を撮影する。
- ② 後日、障害賠償等のトラブルの原因になりうるおそれのある箇所を撮影する。  
(境界明示杭・鉋調査工・家屋施設調査工等)  
※撮影日や撮影時間などを記載し、施工前後の状況証明として撮影することができる。
- ③ 黒板には、撮影する状況などの内容を記入する。

<黒板の様式>



- 1) 黒板は、原則として**600×450**を使用する。
- 2) 記入文字や線は、白色ペンキ書きとし、容易に消えないものとする。  
※小黒板情報電子化を行う場合は、類似様式とする。

#### 4-1 写真整理順序 (参考)

(1) 同一工事内で布設ルートが2ルート以上に分かれている場合はルートごとに、1)布設(替)工から～13)保安設備工の順で整理する。

(2) 整理順序

##### ア.布設(替)工

###### 1) 測点

測点番号順に下記の順で整理する。

- ① 着手前
- ② 完成
- ③ 舗装切断工
- ④ 舗装版取壊工〔舗装版取壊状況、取壊舗装版厚み検測〕
- ⑤ 掘削工〔掘削作業状況、掘削断面検測、会所掘状況〕
- ⑥ 管吊込据付状況
- ⑦ 配管継手状況〔挿入前、挿入後、トルクレンチ締付け〕
- ⑧ 管布設深度（土被）
- ⑨ 砂巻工
- ⑩ 埋戻(入替)転圧工(転圧層順)
- ⑪ 小車運搬工
- ⑫ 路面復旧工

###### イ) 仮復旧工

〔仮復旧工(路床工・施工状況)、仮復旧工(路床工)、プライムコート散布工・仮復旧工(表層工・施工状況)、仮復旧工(表層工)、区画線復旧工〕

###### ロ) 本復旧工

〔本復旧工・着手前、本復旧工(路床工)、本復旧工・補足材敷均し状況、本復旧工・補足材敷均し工、本復旧工(上層路盤工・施工状況)、本復旧工(上層路盤工)・プライムコート散布工・本復旧工(基層工・施工状況)、本復旧工(基層工)・タックコート散布工・本復旧工(表層工・施工状況)、本復旧工(表層工)区画線復旧工〕

尚、測点以外の箇所では復旧工種の異なった箇所の写真は別途整理する。

###### 2) 詳細

- ① 会所掘状況
- ② 配管状況
- ③ 管防護工(作業手順にそって整理)
- ④ 仕切弁取付け及びボックス設置工  
(作業手順にそって整理、設置したボックスの総高さの寸法を記入)
- ⑤ 仕切弁ボックス据付位置検測

- ⑥ バタフライ弁、空気弁、消火栓(排水栓)取付け及びボックス設置工  
(作業手順にそって整理、GLから消火栓カップリングまでの深さ、GLから空気弁ふたまでの深さ、設置したボックス材料の名称及びボックスの総高さの寸法を記入)  
ただし、管防護を行なった異形管使用箇所の写真は、そのつど配管状況の写真と比較出来るよう管防護の写真を作業手順で整理する。
- 3) ライナ取付け工  
管理番号(管番号)順に整理する。
- 4) 管切断(溝切)工・切管用挿し口リング取付け工  
管理番号(管番号)順に整理する。
  - ① 鋳鉄管切断(溝切)状況  
※上記①は、路線・口径別に1箇所以上撮影し、管理番号(管番号)順に整理する。
  - ② 管切断面補修工
  - ③ 切管用挿し口リング取付け工 全箇所・管理番号順に整理
  - ④ P-Linkリング取付け工  
※上記②～④は、全箇所撮影し、管理番号(管番号)順に整理する。
- 5) 管明示テープ工  
管理番号(管番号)順に整理する。

## イ. 給水工事

- 1) 給水管取替工  
給水管取替管理番号順に下記の順で整理する。
  - 公道面
    - ① 着手前
    - ② 完成
    - ③ 舗装切断工
    - ④ 舗装版取壊工〔舗装版取壊状況、取壊舗装版厚み検測〕
    - ⑤ 掘削工(掘削作業状況)
    - ⑥ 管布設深度(土被り)
    - ⑦ 砂巻工
    - ⑧ 埋戻(入替)転圧工(転圧層順)
    - ⑨ 小車運搬工
    - ⑩ 路面復旧工(仮復旧工・本復旧工)
    - ⑪ 給水装置水圧試験工(サドル分水栓)
    - ⑫ 給水穿孔及びコア取付け状況(サドル分水栓)  
※上記①～⑫は、給水管取替工10箇所に最低1箇所は上記の項目で必要な写真を撮影し、添付する。
    - ⑬ 給水装置水圧試験工(割T字管)
    - ⑭ 給水穿孔状況(割T字管)
    - ⑮ 配管状態(土被り)



#### ク.通水試験工・水圧試験工

「技術管理資料」にて整理する。

#### ケ.試掘調査工

作業手順に応じて整理する。

#### コ.弁操作工

ルート整理番号で整理する。

#### サ.材料検査

- ① 配管材料搬入状況
- ② 配管材料
- ③ 土留材料(土留矢板)
- ④ 材料置場(保管状況)

#### シ.保安設備工

- ① 標識類の設置状況(交通規制標識・工事看板等)
- ② 保安施設の設置状況
- ③ 交通整理状況

#### ス.建設発生土排出工

搬出作業手順に応じて整理する。

#### セ.建設廃材処分(搬出)工

搬出作業手順に応じて整理する。

#### ソ.その他

- ① 低騒音型
- ② 排出ガス対策型
- ③ 地域貢献等
- ④ 現場標識の掲示状況(施工体系図・建設業許可標識等)

#### タ.参考写真

- ① 境界明示杭・鉋調査工
- ② 家屋施設調査工

### 4-3 添付図面

(1) 工事写真内容についての図面はA2判を基本とし、当該工事の完成図面とする。

ただし、監督員と協議し図面のサイズを変更することができる。

(2) 図面記入

① 測点番号を赤字で位置図及び配管平面図及び配管系統図に記入する。

② 詳細番号を赤字で配管系統図に記入する。

③ 材料管理番号を、赤字にて配管系統図に記入する。

尚、詳細図がある箇所については、詳細図にも材料管理番号を記入する。

(3) 図面は、14.8cm×21cmの大きさに折り、技術管理資料に図面袋をとじ、それに差し入れる。

※「技術管理資料」に添付する事項及び整理順序

「土木工事書類作成マニュアル」に基づき作成するものとする。

## 撮影箇所一覧表

No.1

区分	工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度
着手前 (測点)		着手前	工事路線の全景及び代表部分同一箇所 (測点)で同一方向から撮影する	着手前	40m毎に1箇所
着手前		〃	着手前の路面状態	〃	必要に応じ適宜
完成 (測点)		完成	工事路線の全景及び代表部分同一箇所 (測点)で同一方向から撮影する	完成後	40m毎に1箇所
完成		〃	路面の復旧状況	〃	必要に応じ適宜
準備工事	調査工	試掘調査工	掘削後の幅・延長・深さが確認できること 埋設物の埋設状態 (埋設物間の離隔・寄り・土被り状況)	施工中	試掘調査箇所毎 に1回
	境界明示杭・ 鉋調査工	境界明示杭・ 鉋調査工	支障または影響を受ける境界明示杭、鉋等の位置状態	施工前	必要に応じ適宜
	家屋施設調査工	家屋施設調査工	沿道家屋等の調査状況(着手前・完成後)	施工前・後	〃
安全管理	保安設備工	標識類の設置状 況	各種標識類の設置状況 (交通規制標識・工事表示板等の各種標識)	設置後	種類ごとに1回
		保安施設の 設置状況	各種保安施設の設置状況 (防護柵、セーフティコーン等の配列状況及び形状)	〃	〃
		交通整理状況	交通誘導警備員の交通整理状況	作業中	5作業日に1回以上
	安全訓練	安全訓練の 実施状況	安全訓練等の実施状況	実施中	実施ごとに1回 (月ごとに1回)
材料検査	材料置場	配管材料等の 搬入状況	配管材料等の搬入状況及び材料置場の全景	作業中	実施毎
		配管材料等の 保管状況	配管材料等の保管状況及び材料置場の全景	保管中	毎月1回
	配管材料検査	配管材料検査	検査の実施状況(全ての材料) 材料の規格、寸法、マーク、刻印等が確認できるように ロッドテープ等の測定器具を使用する ※監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会 のこと	検査時	実施毎
	土留材料検査	土留材料検査	矢板幅、矢板長がロッドテープ等で確認できること 切梁・腹起し等も確認できること ※監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会 のこと	〃	〃
土木工事 (測点)	舗装切断・ 舗装版取壊	舗装切断工	切断状況(切断機械による作業状況が確認できること)	施工中	40m毎に1箇所
		舗装版取壊工	舗装版取壊状況(使用機械・背景をいれて撮影すること)	〃	〃
		取壊舗装版 厚み検測	取壊舗装版の厚みが確認できること	施工後	〃

区分	工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度
土木工事 (測点)	掘削工	掘削作業状況	掘削作業状況(使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中	40m毎に1箇所
		掘削断面検測	掘削幅、掘削深さが確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工後	〃
		会所掘	ロッドテープ等で掘削深さ、延長が確認できること 掘削断面検測とは別に撮影すること	〃	〃
	埋戻工 (配水用ポリエチレン管)	砂床工	床均し締固め完了後の埋戻し深さ、砂床厚、埋戻し土が確認できること	〃	〃
		埋戻工	砂巻工	締固め完了後の埋戻し深さ、砂巻厚、埋戻し土が確認できること(背景をいれて撮影すること)	〃
	埋戻(入替)・ 転圧工		締固め完了後の埋戻し深さ、転圧厚、埋戻し土が確認できること(使用機械・背景をいれて撮影すること)	〃	40m毎に1箇所 (各層20cmごと)
仮復旧工		路面復旧工(測点)の仮復旧工に準じる	---	40m毎に1箇所	
土木工事		小車運搬工	掘削・埋戻時において小車にて運搬する状況が確認できること(背景をいれて撮影すること)	運搬中	実施路線毎
	建設発生土 搬出工	発生土搬出工	トラック積込み状況 (積載状態、運搬車が確認できること)	施工中	適宜
		搬入状況	搬入場所が確認できること	搬入時	〃
	建設廃材処分 (搬出)工	積込状況	トラックへの積込み状況 建設廃材の種類(As殻、Con殻等)の記載 (積載状態、運搬車が確認できること)	施工中	〃
		舗装切断汚泥	汚泥処理装置、汚泥収集運搬車の処理状況が確認できること	〃	〃
		搬出状況	廃棄物処理法に定める、廃棄物を運搬する車両の表示、 携帯する書類等が確認できること	搬出時	〃
		積替・保管状況	積替・保管を行う場合はその状況が確認できること	積替時	〃
		搬入状況	最終(中間)処分場の会社が確認できること	搬入時	〃
管工事 (測点)	管布設工	管吊込据付工	管吊込据付作業の状況が確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工中	40m毎に1箇所
	管布設工 (鋳鉄管)	挿入前	挿し口部に白線を表示し、挿入接合状況が確認できること [管材料に管理番号(管番号を明示すること)] ※異形管・ライナ等に注意すること	接合前	〃
		挿入後	挿入後の状態が確認できること (NS・GX形ゲージにてゴム輪位置の確認状況) [管材料に管理番号(管番号を明示すること)]	接合後	〃
		トルクレンチ 締付け	トルクレンチを使用し締付けを行っている状況が確認できること (K形やP-Link・G-Link等、締付けトルクの管理が必要な箇所)	施工中	〃
管布設工 (配水用ポリエチレン管)	融着面の切削 マーキング	融着面に波形マーキングの記入状態が確認できること [管材料に管理番号(管番号を明示すること)]	記入後	〃	

区分	工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度
管工事 (測点)	管布設工 (配水用ポリエチレン管)	融着面の切削完了	融着面に記入した波形マーキングが完全に消えていること 切削機が確認できること [管材料に管理番号(管番号を明示すること)]	切削後	40m毎に1箇所
		融着面の清掃状況	素手での融着面の清掃状況が確認できること [管材料に管理番号(管番号を明示すること)]	清掃中	〃
		融着部の固定	クランプを用いたソケットの固定、挿しロマーキングが確認できること [管材料に管理番号(管番号を明示すること)]	固定後	〃
		コントローラの正常終了確認	コントローラの表示が正常終了であることが確認できること [管材料に管理番号(管番号を明示すること)]	施工後	〃
		インジケータの隆起確認	インジケータの隆起、クランプでの固定、融着完了時刻、冷却完了時刻の記入が確認できること [管材料に管理番号(管番号を明示すること)]	〃	〃
		融着完了	クランプ固定した状態で、融着終了時刻、冷却完了時刻が確認できること [管材料に管理番号(管番号を明示すること)]	〃	〃
		管明示テープ工	ロードテープ等で貼付け間隔が確認できること [管材料に管理番号(管番号を明示すること)]	〃	〃
	管布設工	管布設工(土被り)	土被り・官民境界からの寄り寸法が確認できること (ポリエチレンスリーブ被覆完了後)	管据付完了後	〃
		管布設工(土被り) 【追加測点】	測点間で土被り等を変更した場合は追加測点を設けること 土被り・官民境界からの寄り寸法が確認できること (ポリエチレンスリーブ被覆完了後)	〃	必要に応じ適宜
		埋設表示シート敷設工	埋戻転圧完了後にGLから敷設高さが確認できること (GLから0.3mの位置に敷設)	施工後	40m毎に1箇所
管工事	管布設工	排水設備工	排水設備箇所の異形管の布設状況が確認できること(異形管に管理番号を明示し、黒板には撮影する材料の管理番号を記載する) ※コンクリート削孔の場合、削孔径・削孔深の確認	〃	全箇所
		異形管布設状況	異形管の布設状況が確認できること (異形管に管理番号を明示し、黒板には撮影する材料の管理番号を記載する)	〃	〃
		水路伏越(土被り)	水路両側の伏越深さ(土被り)が確認できること	〃	〃

区分	工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度
管工事	管布設工 (铸铁管)	铸铁管切断 (溝切) 状況	铸铁管切断(溝切) 状況が確認できること (切管に管理番号を明示し、黒板には撮影する材料の管理番号、継手形式、口径を記載する)	施工中	路線・口径別に1 箇所以上
		管切断面補修工	管切断面補修完了が確認できること (管に管理番号を明示し、黒板には管理番号、継手形式、口径を記載する)	施工後	全箇所
		ライナ取付け工	ライナ取付けが確認できること (管に管理番号を明示し、黒板には管理番号、継手形式、口径を記載する)	〃	〃
		切管用挿しロリ ング取付け工	切管用挿しロリ ング取付けが確認できること (管に管理番号を明示し、黒板には管理番号、継手形式、口径を記載する)	〃	〃
		P-Link取付け工	P-Link取付けが確認できること (管に管理番号を明示し、黒板には管理番号、口径を記載する)	〃	〃
		管明示テープ工	ロッドテープ等で貼付け間隔が確認できること (管に管理番号を明示し、黒板には管理番号、口径を記載する)	〃	直管10本に1本以上
	管布設工 (配水用ポリエチレン管)	配水用ポリエチレン管切断状況	配水用ポリエチレン管切断状況が確認できること (切管に管理番号を明示し、黒板には撮影する材料の管理番号、口径を記載する)	施工中	路線・口径別に1 箇所以上
	弁・栓等設置工	仕切弁設置工	仕切弁の設置状況が確認できること(仕切弁に管理番号を明示し、黒板には管理番号、継手形式、口径を記載する)	施工中	全箇所
		仕切弁ボックス設置工	ボックス材料の組合せ及び設置状況が確認できること(ボックスに管理番号を明示し、黒板にはボックスの総高さの寸法を記載する)	施工後	〃
		仕切弁ボックス据付位置検測	スピンドルの中心と鉄蓋の中心が確認できること	〃	〃
		バタフライ弁設置工	バタフライ弁の設置状況が確認できること(バタフライ弁に管理番号を明示し、黒板には管理番号、継手形式、口径を記載する)	〃	〃
		バタフライ弁ボックス設置工	ボックス材料の組合せ及び設置状況が確認できること(ボックスに管理番号を明示し、黒板にはボックスの総高さの寸法を記載する)	〃	〃
		空気弁設置工	空気弁の設置状況が確認できること(空気弁に管理番号を明示し、黒板には管理番号、空気弁口径を記載する)	施工中	〃
		空気弁ボックス設置工	ボックス材料の組合せ及び設置状況が確認できること(ボックスに管理番号を明示し、黒板にはボックスの総高さの寸法を記載する)	施工後	〃
		空気弁据付位置深さ検測	GLから空気弁上部カバーまでの深さが確認できること (150mm ≤ H ≤ 300mm)	〃	〃
		空気弁ボックス据付位置検測	空気弁の中心と鉄蓋の中心が確認できること	〃	〃
		消火栓(排水栓)設置工	消火栓の設置状況が確認できること(消火栓に管理番号を明示し、黒板には管理番号、消火栓口径を記載する)	施工中	〃
		消火栓(排水栓)ボックス設置工	ボックス材料の組合せ及び設置状況が確認できること(ボックスに管理番号を明示し、黒板にはボックスの総高さの寸法を記載する)	施工後	〃
		消火栓(排水栓)据付位置深さ検測	GLからカップリングまでの深さが確認できること (150mm ≤ H ≤ 300mm)	〃	〃
		消火栓(排水栓)ボックス据付位置検測	カップリングの中心と鉄蓋の中心が確認できること	〃	〃
トルクレンチ締付け		トルクレンチを使用し締付けを行っている状況が確認できること(締付けトルクの管理が必要な箇所)	施工中	〃	

区分	工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	
管工事	管防護工	基礎砕石工	高さ、幅、長さが確認できること	施工後	全箇所	
		型枠工	〃	〃	〃	
		コンクリート工	〃	〃	〃	
	水圧試験	通水試験工 管径800mm以下	通水試験の検査状況が確認できること (黒板に試験日、試験開始及び終了時間、試験開始及び終了水圧、立会人名を記載する) ※監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会のこと	試験時	通水試験区間毎	
		水圧試験工 管径900mm以上	ラゲを設置しない直管継手部の内側にテストバンドを設置し、水圧試験工の実施状況が確認できること	〃	全箇所	
	既設管撤去工	土工事 なし				
		既設管撤去工 (DIP・VP等)	既設管撤去状況が確認できること (黒板に管種、口径を記載する)	〃	施工中	40m毎に1箇所
		既設管撤去工 (ACP)	既設管撤去状況が確認できること 作業者は保護具等を着用していること (黒板に管種、口径を記載する)	〃	〃	〃
		既設管切断工 (ACP)	切断箇所に水をかけ、湿潤状態が確認できること	〃	〃	適宜
		土工事 あり				
		着手前	工事路線の全景及び代表部分 同一箇所から同一方向から撮影する	〃	着手前	40m毎に1箇所
		完 成	工事路線の全景及び代表部分 同一箇所から同一方向から撮影する	〃	完成後	〃
		舗装切断工	切断状況(切断機械による作業状況が確認できること)	〃	施工中	〃
		取壊舗装版厚み 検測	取壊舗装版の厚みが確認できること	〃	施工中	〃
		掘削作業状況	掘削作業状況(使用機械・背景をいれて撮影すること)	〃	施工中	〃
		既設管撤去工 (DIP・VP等)	既設管撤去状況が確認できること (黒板に管種、口径を記載する)	〃	〃	〃
		既設管撤去工 (ACP)	既設管撤去状況が確認できること 作業者は防護具等を着用していること (黒板に管種、口径を記載する)	〃	〃	〃
		既設管切断工 (ACP)	切断箇所に水をかけ、湿潤状態が確認できること	〃	〃	適宜
		掘削断面検測	掘削幅、掘削深さが確認できること(背景をいれて撮影すること)	〃	施工後	〃
		埋戻(入替)・転 圧工	締固め完了後の埋戻し深さ、転圧厚、埋戻し土が確認できること(使用機械・背景をいれて撮影すること)	〃	〃	40m毎に1箇所 (各層20cmごと)
仮復旧工	路面復旧工(測点)の仮復旧工に準じる	〃	---	40m毎に1箇所		

区分	工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	
管工事	既設管処分工	既設管集積状況 (ACP)	撤去管の数量がロッドテープ等で確認でき、ポリエチレンスリーブ(二重)で被覆されていること アスベスト廃棄物の表示 ※監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会のこと	検査時	適宜	
		既設管集積状況 (DIP・CIP・SP・VP等)	撤去管の数量がロッドテープ等で確認できること ※監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会のこと	〃	〃	
		既設管積込状況	トラック積込み状況 (積載状態、運搬車が確認できること)	施工中	〃	
		搬出状況	現場や仮置き場から搬出する状況	運搬前	〃	
		既設管搬入状況 (ACP等)	最終処分場等の会社が確認できること	搬入時	〃	
		既設管搬入状況 (DIP・CIP・SP・VP等)	中間処理場の会社が確認できること	〃	〃	
	管末閉塞工	土工事 なし				
		管末閉塞工	管末閉塞工に使用した材料が確認できること		施工後	全箇所
		土工事 あり				
		着手前	閉塞箇所の全景及び代表部分 同一箇所から同一方向から撮影する		着手前	5箇所毎に1箇所 (同一箇所)
		完 成	閉塞箇所の全景及び代表部分 同一箇所から同一方向から撮影する		完成後	〃
		掘削作業状況	掘削作業状況(使用機械・背景をいれて撮影すること)		施工中	〃
		管末閉塞工	管末閉塞工に使用した材料が確認できること		施工後	全箇所
		仮復旧工	路面復旧工(測点)の仮復旧工に準じる		---	5箇所毎に1箇所 (同一箇所)
	既設管充填工	注入材料検査	注入使用材料が確認できること ※監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会のこと		検査時	適宜
		注入・到達状況	エアミルク等注入状況が使用機械も含め確認できること エアミルク等が到達した状況が確認できること (流出物はバケツ等で受けること)		〃	路線毎に1回
		注入材料使用量検査	注入使用材料・使用量が確認できること ※監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会のこと		〃	〃
	不断水連絡工	割T字管取付け工	割T字管の取付け状況が確認できること(割T字管に管理番号を明示し、黒板には管理番号、形式、口径を記載する)		施工後	全箇所
		水圧試験工	割T字管の取付け完了後(穿孔前)の水圧試験状況が確認できること(試験水圧0.75Mpaを3分間保持)		試験完了後	〃
		穿孔状況	穿孔機械を含めた作業状況が確認できること (穿孔技能者が確認できること)		施工中	〃
		コア取付け状況 (割T字管)	コアの取付け状況が確認できること (穿孔技能者が確認できること)		〃	〃

区分	工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度
給水工事	給水管取替工	着手前	取替箇所の全景及び代表部分 同一箇所から撮影する	着手前	10箇所毎に1箇所 (同一箇所)
		完 成	取替箇所の全景及び代表部分 同一箇所から撮影する	完成後	〃
		舗装切断工	切断状況（切断機械及び汚泥処理装置による作業状況が 確認できること）	施工中	〃
		舗装版取壊工	舗装版取壊状況（使用機械・背景をいれて撮影すること）	〃	〃
		掘削作業状況	掘削作業状況（使用機械・背景をいれて撮影すること）	〃	〃
		掘削断面検測	掘削幅、掘削深さが確認できること（背景をいれて撮影す ること）	施工後	〃
		管布設工（土被 り）	取替箇所の全景及び土被りが確認できること（75mm以上の 口径の場合は、ポリエチレンスリーブ被覆完了後）	配管完了後	〃
		砂巻工	締固め完了後の埋戻し深さ、砂巻厚、埋戻し土が確認で きること（背景をいれて撮影すること）	施工後	〃
		埋戻（入替）・転 圧工	締固め完了後の埋戻し深さ、転圧厚、埋戻し土が確認で きること（使用機械・背景をいれて撮影すること）	〃	10箇所毎に1箇所 (各層20cmごと) (同一箇所)
		仮復旧工	路面復旧工（測点）の仮復旧工に準じる	---	10箇所毎に1箇所
		給水装置水圧試 験工（分水栓）	分水栓取付け完了後（穿孔前）の水圧試験状況が確認でき ること（配管を含む） （試験水圧1.75Mpaを1分間保持）	試験完了後	〃
		穿孔状況（分水 栓）	分水栓の穿孔状況が確認できること （穿孔技能者が確認できること）	施工中	〃
		コア取付け状況 （分水栓）	コアの取付け状況が確認できること （穿孔技能者が確認できること）	〃	〃
		給水装置水圧試 験工（割T字管）	割T字管の取付け完了後（穿孔前）の水圧試験状況が確認で きること（試験水圧0.75Mpaを3分間保持） ※50mm（分水栓以外）は、配管も別途に水圧試験を実施 すること	試験完了後	全箇所
		穿孔状況	割T字管の穿孔状況が確認できること （穿孔技能者が確認できること）	施工中	〃
		コア取付け状況 （割T字管）	コアの取付け状況が確認できること （穿孔技能者が確認できること）	〃	〃
		配管状況（土被 り）	給水管の配管状況・土被りが確認できること	施工後	〃
		止水栓取付け工	止水栓取付け状況が確認できること	施工中	〃
		止水栓筐設置工	止水栓筐の設置状況が確認できること	〃	〃
		止水弁設置工	止水弁の設置状況が確認できること	〃	〃
止水弁ホックス設 置工	ホックス材料の組合せ及び設置状況が確認できること（ホックス に管理番号を明示し、黒板にはホックスの総高さの寸法を記 載する）	施工後	〃		

区分	工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	
給水工事	給水管取替工	宅地内布設工 着手前	宅地内の全景及び代表部分 同一方向から撮影	着手前	全箇所	
		宅地内布設工 完 成	〃	完成後	〃	
		宅地内布設工 配管状況	宅地内配管の配管状況が確認できること	配管完了後	〃	
		埋設用メータユニット 設置状況	埋設用メータユニットの設置状況が確認できること	施工後	〃	
		量水器ボックス取 替状況	旧量水器ボックスの状態（施工前）で、新量水器ボック スを側に置き撮影すること	施工前	〃	
		宅地内布設工 本復旧工	宅地内舗装復旧の舗装厚が確認できること	施工中	〃	
		逆止弁取付け工	逆止弁の取付け状況が確認できること ※メーターを取外した状態で撮影すること （メータユニット設置箇所も同様とする。）	〃	〃	
		埋設管表示ビン 設置工	埋設管表示ビンの設置状態が確認できること	施工後	〃	
	分水栓締切り工	分水栓締切状況	締切り状態及び深さ（土被り）が確認できること	締切り完了後	5箇所毎に 1箇所以上	
		仮復旧工	路面復旧工（測点）の仮復旧工に準じる	---	〃	
	給水管締切り工	給水管締切状況	締切り状態及び深さ（土被り）が確認できること	締切り完了後	〃	
		仮復旧工	路面復旧工（測点）の仮復旧工に準じる	---	〃	
	仮設工	土留工	簡易土留工 （簡易土留矢板）	背景を入れ、使用枚数（延長）が確認できること 会所掘に伴う簡易土留工の撮影箇所は、測点のみとする	施工後	1施工単位ごと
			土留工 （本土留矢板）	打設及び引抜き状況が確認できること （使用機械・背景が確認できること）	施工中	〃
打設枚数（延長）及び根入れ深さが確認できること				施工後	〃	
切梁・腹起し等の設置状況 （使用機械・背景が確認できること）				施工後	〃	
水替工		水替状況が確認できること	施工中	指定された箇所 1回以上		
仮設配管工		着手前	布設路線の全景及び代表部分 同一箇所同一方向から撮影する	着手前	40m毎に1箇所	
		完 成	布設路線の全景及び代表部分 同一箇所同一方向から撮影する	完成後	〃	
	布設状況 （仮設本管）	布設状況が確認できること	施工中	〃		

区分	工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度	
仮設工	仮設配管工	布設状況 (仮設給水管)	布設状況が確認できること	施工後	全箇所	
		仮設消火栓 設置状況	設置状況が確認できること	〃	〃	
		撤去状況 (仮設本管)	撤去状況が確認できること	施工中	40m毎に1箇所	
		撤去状況 (仮設給水管)	〃	〃	10箇所毎に 1箇所以上	
		仮設消火栓撤去 状況	〃	〃	全箇所	
		土工事 あり				
		舗装切断工	布設時の切断状況（切断機械による作業状況が確認できること）	施工中 (布設時)	40m毎に1箇所	
		掘削作業状況	布設・撤去時の掘削作業状況 (使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中 (布設・撤去時)	〃	
		掘削断面検測	布設・撤去時の掘削幅、掘削深さが確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工後 (布設・撤去時)	〃	
		埋戻(入替)・転 圧工	布設・撤去時の締め固め完了後の埋戻し深さ、転圧厚、埋戻し土が確認できること(使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中 (布設・撤去時)	40m毎に1箇所 (各層20cmごと) (同一箇所)	
		仮復旧工	路面復旧工(測点)の仮復旧工に準じる	---	40m毎に1箇所	
		仮設配管の布設 延長検測	仮設配管の露出・埋設延長が確認できること 黒板に口径・露出及び埋設延長を記入 ※監督員もしくは工事担当課等長が指名する職員が立会のこと	検査時	1施工単位ごと	
路面復旧工 (測点)	仮復旧工 各工種共通	路盤工 施工状況	すき取り掘削・転圧状況が確認できること (使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中	40m毎に1箇所 (測点と同一箇所)	
		路盤工	路面よりの深さが確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工後	〃	
		プライムコート散布工	広い範囲の散布後の状況が確認できること (使用機械・背景をいれて撮影すること)	〃	〃	
		表層工 施工状況	敷均し転圧状況が確認できること (使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中	〃	
		表層工	敷均し転圧完了後、舗装厚が確認できること	施工後	〃	
	本復旧工	着手前	測点間にポールを設置する 復旧箇所の全景及び代表部分 同一箇所から同一方向から撮影する	着手前	40m毎に1箇所 (測点間で撮影)	
		完 成	測点間にポールを設置する 復旧箇所の全景及び代表部分 同一箇所から同一方向から撮影する	完成後	〃	
		舗装切断工	切断状況（切断機械による作業状況が確認できること）	施工中	80m毎に1箇所	
		舗装版取壊工	舗装版取壊状況(使用機械・背景をいれて撮影すること)	〃	〃	
		取壊舗装版 厚み検測	取壊舗装版の厚みが確認できること	施工後	40m毎に1箇所	

※) 本復旧工の着手前・完成写真は、工事写真帳の先頭にまとめて、前後の状況が比較できるように配置すること。

区分	工種	種別	撮影項目	撮影時期	撮影頻度
路面復旧工 (測点)	本復旧工	路床工 施工状況	すき取り掘削・転圧状況が確認できること (使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中	80m毎に1箇所
		路床工 深さ検測	転圧完了後に路面よりの深さが確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工後	40m毎に1箇所
		不陸整正工	不陸整正の実施状況が確認できること (使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中	80m毎に1箇所
		補足材敷均し 施工状況	補足材の敷均し転圧状況が確認できること (使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中	〃
		補足材敷均し工 厚み検測	不陸整正後、路面よりの深さ及び補足材厚が確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工後	40m毎に1箇所
		上層路盤工 施工状況	敷均し転圧状況が確認できること (使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中	80m毎に1箇所
		上層路盤工 厚み検測	転圧完了後に路面よりの深さ及び路盤厚が確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工後	40m毎に1箇所
		プライムコート散布工	散布後の状況が確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工後	80m毎に1箇所
		基層工 施工状況	敷均し転圧状況が確認できること (使用機械・背景をいれて撮影すること)	〃	〃
		基層工 厚み検測	敷均し転圧完了後、舗装厚が確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工後	40m毎に1箇所
		タックコート散布工	散布後の状況が確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工後	80m毎に1箇所
		プライムコート散布工	散布後の状況が確認できること (背景をいれて撮影すること)	〃	〃
		表層工 施工状況	敷均し転圧状況が確認できること (使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中	〃
		表層工 厚み検測	敷均し転圧完了後、舗装厚が確認できること (背景をいれて撮影すること)	施工後	40m毎に1箇所
			コア採取	抜き取りコアの採取厚さ	採取後
	区画線復旧工	区画線復旧工	区画線の施工状況が確認できること (使用機械・背景をいれて撮影すること)	施工中	1施工毎に 1箇所以上
その他	弁操作工	弁操作工	主任技術者又は配管工の弁操作状況が確認できること	作業中	断水回数毎に 1箇所以上
		地域貢献等		実施時	適宜
	指定建設機械使用 状況	低騒音型	低騒音型機械の使用が認定シール等で確認できること	〃	使用機械毎 1回
		排出ガス対策型	排出ガス対策型機械の使用が認定シール等で確認できること	〃	〃
	現場標識の 掲示状況	施工体系図・建設業退職金共済制度適用事業主工事現場 標識を掲げた状況が確認できること ※建設業許可標識・労働保険関係成立票等	設置後	1工事毎 1回	

注1) 「適宜」とは、監督員の指示する箇所をいう。

注2) 撮影箇所一覧表にない工種等については、撮影時期・頻度等について監督員と協議を行うこと。